

\$name

=====

THE VEDANTA KYOKAI

News, Updates and Miscellany from the Vedanta Society of Japan

November - December 2003 Volume 1 Number 7

For a designed and printable version of Vedanta Kyokai in PDF (804K) click

<http://www.vedanta.jp/newsletter/2003/007/007NovDec03.pdf>

(英語バージョン)

=====

このように語った

「主の御名は、風が雲を吹き払うように、心を曇らせる世俗性の雲を破壊する。」
(シュリ・サーラダーデーヴィー・ホーリー・マザー)

「私はあなたを慰めない者にはしておかない、私はあなたのもとに来るだろう。
その日あなたは、私が父のもとにあること、そしてあなたが私の中に、そして私
があなたの中にあることを知るだろう。」(イエス・キリスト)

今月のカレンダー

誕生日

12月16日 シュリ・シュリ・サーラダーデーヴィー・ホーリー・マザー

12月19日 スワミ・シヴァーナンド

12月24日 クリスマス・イブ

スワミ・バスカラナンドが月例会で講演されました。

11月16日(日)、日本ヴェーダーンタ協会の古い会員の方々が長年敬意を
払ってきた、シアトル、西ワシントン・ヴェーダーンタ協会の長スワミ・バスカ
ラーナンドが出席されました。この方は、長年にわたって会員にご指導をされ、
この協会が正式に設立されたときに非常なご努力を払われた方であります。

ヴェーダ朗唱、スワミ・ヴィヴェーカーナンドの『ラージャ・ヨーガ』の英日
での朗読の後、スワミ・メダサーナンドからスワミ・バスカラナンドの簡潔な
紹介がなされ、スワミ・バスカラナンドは「日常における霊性の実践」という
演題で講演をされました。

「あるとき、ロンドンでイギリス人と中国人の友達が住んでいました。中国人
が中国の生まれ故郷に帰る時にその友人を連れて行きました。故郷ではイギリス
人を款待する催しを開きました。

「話をするようになったということで中国人が、『どの言葉で話すことになっ
ているのかね』と尋ねたら、イギリス人は「もちろん中国語からさ。しかし、心
配することはないよ。おじぎするだけだから」と答えました。

「村人に紹介されると、彼はゆっくり立ち上がり、左に、右に頭を下げて座り

ました。村人は万雷の拍手で彼を歓迎しました。それに対して彼はまた立ち上がり、右に、左に、前におじぎをしました。ところが今度は、村人は腐った卵やトマトなどを彼に投げ付けました。イギリス人はショックを受けて、中国人の友人に尋ねました。すると彼は答えました、『私たちは長い話が嫌いなのです。』

「そのような教訓に従って、私も簡潔にお話ししようと思います。」

霊性の実践を定義するときスワミは次のことを強調されました。「シュリ・ラーマクリシュナは、居住者が神を悟るためには、神聖な交わりと絶えず神を覚えているという二つのことが重要であるとおっしゃいました。」

神聖な交わりは求道者に靈感を与えることについて例を上げられました。「ある人が家でバイクの練習をはじめました。熱心に練習していましたが、続けているうちにだんだん興味を失ってきました。そこでその人は体育館へ行って、他の人と一緒に練習しているうちにすると、だんだんやる気が出てきました。霊性の実践の場合も同じです。神聖な交わりによって霊性の実践を続けることができるようになるのです」。

スワミは神聖な交わりの良い点を、シュリ・ラーマクリシュナのお話を引用してお話しになりました。「心は白い布に似ています。それを赤い染料に浸けると赤くなります。緑の染料に浸けると緑になります。同様に、心が暴力に浸けられるとそれは暴力的になります。清さに浸けられれば清くなります。神は最も清い存在です。心が清くなると神に会うことができます。」

「水は水素と酸素でできていますが、固体、液体、気体という三つの状態をとります。固体の状態が一番順応性のない状態です。液体はまだ制限がある状態です。気体はもっとも順応性のある状態です。同様に、清い心は時間、空間および因果の制限から脱することができます。」

また、スワミは、「すべての人は一日中神の御名をとることですべてを達成することができる」と言われました。要は絶えず神を覚えているということです。

スワミは、偉大な霊性の教師は私どもの世俗的な活動を霊化することができと言われました。「人は、自分の家族を見るとき、神の家族として見なければなりません。すべての活動の中で、人は神を喜ばせるために管理人であるべきです。

「善は清さと同じです。

「また、すべての関係や活動の中で、それが自己犠牲であるか否かがその基準です。」

いくつかの質疑応答の後に、午前の集いが終わり、皆はスワミ・バスカラナンダジと共に昼食をいただきました。午後の集い。スワミ・バスカラナンダジから「アメリカにおけるヴェーダーンタの現在と未来」という表題でお話がありました。終了後、質疑応答があり、その後、ティーになりました。

Photos

http://www.vedanta.jp/multimedia/image/sw_bhas/index.html

今月の教え

「私の最大の関心事は、あなたが失敗したかどうかではありません、失敗に満足しているかどうかということです」 アブラハム・リンカーン

忘れられない物語

ラビの助言

ある貧しい男が、生活がどうしようもない状態になったので、ラビを訪れ、助言を乞いました。

「ラビよ。」彼は叫びました。「事態は悪く、さらに悪くならうとしています。私は貧しい。妻と6人の子供たちと親戚の者と私は一部屋の家に住んでいなければなりません。私たちはごちゃごちゃに生活しています。私たちの神経はぼろぼろになっています。問題をたくさんあり、みんなで喧嘩しています。私の家は地獄のようです。生きているより死んだ方がましです。」

ラビは事態を深く考えました。「私の息子よ」、彼は言いました、「私が言うことをすると約束しなさい。そうしたら事態は改善するでしょう。」

「約束します、ラビ。」困った人に答えました。「おっしゃることはすべて致しましょう。」

「あなたはどのような生き物を飼っていますか。」

「私は雌牛とヤギと何匹かの鶏を飼っています。」

「結構。家に帰ったらその生き物を全部いっしょに家に入れなさい。」

男はびっくりしました。しかし、ラビと約束したので家に帰ると、生き物を全部家の中に入れました、

次の日、貧者はラビにもとに戻って叫びました。「ラビ、あなたは私に不幸をもたらしました。私はあなたがおっしゃったように生き物たちを家の中に入れました。その結果事態は前より悪くなりました。私の人生は地獄そのものです。家は物置きのようになってしまうました。お助け下さい。」

「息子よ」、ラビを落ち着いた態度で答えました、「家に帰り、鶏たちを家から出しなさい。神がお助けになるでしょう。」

そこで貧しい男は家に帰り、鶏を家から出してやりました。すぐに男はラビのもとに走って来ました。

「ラビよ」、彼は嘆きました。「お助けください。今度はヤギはあちこちをぶちこわしています。まるで悪夢のようです。」

「家に帰りなさい。」ラビは優しく言った。「そして、家からヤギを出してなさい。神はあなたを助けてくれるでしょう。」

貧しい男は家に帰り、ヤギを家から出しました。しかし、男はすぐに戻って、大声で嘆き悲しみながらラビに訴えました。「私になんという不幸がもたらされたことでしょうか。今度は雌牛が家を牛小屋のようにしてしまいました。人間がこんな生き物といっしょに生活することなどできません。」

「その通りだ。あなたはまったく正しい」とラビは同意し、「すぐに家に帰って、雌牛を家から出してやりなさい。」

不幸な男は家に急ぎ、雌牛を家から出してやりました。

一日が過ぎました。男はあまたラビのもとに来ました。

「ラビ」、哀れな男は顔を真っ赤にして言いました。「おかげで私の生活は楽になりました。生き物たちがいなくなって家は静かになり、部屋がきれいになりました。なんとすばらしいことでしょうか。」

民話より。

スワミ・メダサーナンダ、札幌を訪問。

11月2日から4日までスワミ・メダサーナンダは、札幌を訪問して講話されました。初めてのご訪問です。

講演がなされ、演題は「心の平安」でした。約30名の方々が出席しました。大部分は女性でした。

質疑応答があり、予定を1時間以上も超過しました。瞑想指導を受けたいと言う要望がありましたが、残念ながら、その時間がありませんでした。

アンケートによると、大部分の出席者の方々はマハーラージのお話に感動されたようです。また、次の機会に札幌のご訪問を期待しておられました。

札幌の三浦武、松岡康治、ダムール貴子さんがマハーラージを北海道大学、北海道神社などに案内されました。最後には弘法大師を祀っている丸山に案内されました。

今年の冬は遅れているということで雪景色を見ることができないと、マハーラージが冗談を言われました。次回は雪のシーズンにご訪問になることを期待しています。

以上、札幌のダムール貴子さんより。

日本語のウェブサイトとビデオストリーミング

http://www.mac365.com/sapporo_kouwa.html

音楽療法と瞑想の統合

11月15日午前10時から午後12時半まで、山手線田町付近の仏教伝道センターで、インドのプナ、ヴィシュワ・シャンティ・ダムにあるバラティヤ・サンسكري・ティダルシャン基金 (www.ayurved-wagholi.org) を代表しているダルシャナム (www.darshanam.com) 主催で、音楽療法と瞑想の会が開催されました。この基金はインドの伝統の科学と芸術と文化を促進することを目的としています。

音楽療法のプログラム。著名なシター演奏者兼基金のインド古典音楽の責任者である Chandrakant Sardeshmukh 博士によってシターの演奏が行われました。次いで、日本ヴェーダーンタ協会の会長スワミ・メダサーナンダが瞑想を指導をされました。その後、スワミ・メダサーナンダとの間に質疑応答が行われ、祈りと瞑想との違いなどについて回答されました。

ある参加者は、「私は音楽療法によってブロックとストレスが緩和され、深く

心を集中することができ、瞑想することができました」と報告していました。私の経験によっても、Chandrakant 博士の音楽療法は、身体および心に平安をもたらし、深い瞑想状態にしてくれます。

出席者はプログラムをエンジョイされました。

(東京品川、Ms. Enomi Kase による)

公告

協会ではクリスマスイブが、12月24日午後7時から祝います。賛美歌、聖書朗読、講演が行われ予定です。

カルマ・ヨーガの実践。本年11月から逗子例会のとき、昼食後約1時間、希望する出席者が会館内外の清掃を行うことになりました。

Issued by: The Vedanta Society of Japan (Nippon Vedanta Kyokai)

4-18-1 Hisagi, Zushi-shi, Kanagawa-ken 249-0001 JAPAN

Phone: 81-468-73-0428 Fax: 81-468-73-0592

website: <http://www.vedanta.jp> email: info@vedanta.jp

[KENB007J]